

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様								必須
6							調剤支援システム	
6	1						電子カルテ連携プログラム（内服・注射）	
6	1	1					当センターの医療病院情報システムとIP通信等で接続が可能で、専用のインターフェース端末を介し情報を得、調剤部門システムメーカが提供するものであること。	○
6	1	2					当センターに導入する医療情報システムベンダーの提供する通信プロトコル、電文様式に合わせた受信システムを導入すること。	○
6	1	3					医療情報システムからの調剤に関わる処方・注射オーダーの他、検査結果、患者基本情報等をIFして入手可能とし、患者ケアに関わる有効な情報として調剤監査業務に活用できること。	○
6	1	4					受信システムの表示画面には、医療情報システムとの接続を示す状態表示と当日受信件数の表示があること。	○
6	1	5					受信システムは医療情報システムと24時間365日常時接続を行うもので、通信状態の監視ができること。また何らかの原因で通信が途絶えたり受信システムが停止した場合、システムの停止警告が薬剤部門システムで判断できること。	○
6	1	6					送受信した通信ログは、最低30日以上保管することができること。	○
6	1	7					既存医療情報システム連携プログラム（内服・注射）の機能を踏襲すること。	○
6	1	8					クライアントPCは、以下の要件を満たすこと。	○
6	1	9					CPUがインテル Corei3-13100（3.40GHz）相当以上であること。	○
6	1	10					メモリーの容量は4GB以上であること。	○
6	1	11					256GB以上の物理容量を持つソリッドステートドライブを内蔵していること。	○
6	1	12					DVD-ROMドライブを内蔵していること。	○
6	1	13					台数は、クライアントPC 2台、の構成であること。	○
6	2						サーバーシステム	
6	2	1					調剤支援システムと今回調達物品類全ての(可能な)データ及び情報変換のためのマスタを保管・管理ができること。サーバー構築、導入に於いては調剤部門システムメーカが提供するものであること。	○
6	2	2					サーバーシステムを利用し調剤支援システムとサブシステム間の連携連動のためデータ情報交換、変換を行うこと。	○
6	2	3					各調剤システム機器制御装置、サブシステム間をLANで繋いだシステムを構築すること。	○
6	2	4					調剤部門システムにて保持した処方情報は、バックアップ機能にて半年間保有できる容量を確保していること。またそのシステムデータ容量を示せること。	○
6	2	5					調剤部門システム、機器の各々の設定をサーバーに格納しバックアップできること。	○
6	2	6					サーバーは、以下の要件を満たすこと。	○
6	2	7					CPUがインテルXeon E-2314（2.8GHz）相当以上であること。	○
6	2	8					主記憶装置の容量は8GB以上であること。	○
6	2	9					300GB以上の物理的容量を持つ磁気ディスク装置を2台内蔵し、RAID1以上で構成されていること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
6	2	10				OSは、Windows Server 2019 Standard 日本語版 相当以上であること。	○
6	2	11				DVD-ROMドライブを内蔵していること。	○
6	2	12				無停電電源装置は、電源管理ソフトウェアに対応しておりオートシャットダウンが行えること。	○
6	2	13				1000Base-T以上のインターフェースを1個有し、通信プロトコルはTCP/IPであること。	○
6	2	14				バックアップ設定はタスクスケジューラーによって管理され、必要に応じてNAS等のネットワーク外部記録媒体での保存ができること。	○
6	2	15				病院のセキュリティポリシーに沿ったバックアップシステムを構築すること。	○
6	2	16				調剤支援システム用サーバーは当センターの管轄場所に設置し、設置条件等は当院管理者に従うこと。また部門側ネットワーク機器等に必要な備品は本調達に含めること。	○
6	2	17				台数は、サーバー1台、の構成であること。	○
6	3					処方解析（内服）・注射／ケモ解析（注射）プログラム	
6	3	1				本プログラムは、当センターの医療情報システムより入手した処方情報を基に当薬剤部の調剤内規に則った処方解析を自動で行い、調剤機器、調剤部門サブシステムとの連携を行う根幹システムである。 解析処理には(調剤、監査)各種のパラメータを持って当薬剤部の求める自動分包機器やサブシステム連動を自在に調整することができること。 これら調剤支援を目的としたシステムであり調剤部門システムメーカーが提供するものであること。	○
6	3	2				既存処方解析（内服）・注射／ケモ（注射）プログラムを踏襲し、既存調剤機器との接続が可能であること。	○
6	3	3				クライアントPCは、以下の要件を満たすこと。	○
6	3	4				CPUがインテル Corei3－13100（3.40GHz）相当以上であること。	○
6	3	5				メモリーの容量は4GB以上であること。	○
6	3	6				256GB以上の物理容量を持つソリッドステートドライブを内蔵していること。	○
6	3	7				DVD-ROMドライブを内蔵していること。	○
6	3	8				台数は、クライアントPC 3台、の構成であること。	○
6	4					麻薬管理プログラム	
6	4	1				麻薬管理プログラムは、病院情報システムからの麻薬を含む処方・注射オーダーから依頼・実施データを共有し、当センター薬剤部における麻薬の一元管理ができること。	○
6	4	2				既存麻薬管理プログラムの機能を踏襲すること。	○
6	4	3				クライアントPCは、以下の要件を満たすこと。	○
6	4	4				CPUがインテル Corei3－13100（3.40GHz）相当以上であること。	○
6	4	5				メモリーの容量は4GB以上であること。	○
6	4	6				256GB以上の物理容量を持つソリッドステートドライブを内蔵していること。	○
6	4	7				DVD-ROMドライブを内蔵していること。	○
6	4	8				台数は、クライアントPC 1台、の構成であること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
6	5					各帳票印刷プログラム	
6	5	1				調剤支援システムにて発行される帳票類に関するプリンタへの出力先指示、発行指示、履歴、印字レイアウトなどを管理しているシステムであること。	○
6	5	2				既存各帳票印刷プログラムの機能を踏襲すること。	○
6	5	3				クライアントPCは、以下の要件を満たすこと。	○
6	5	4				CPUがインテル Corei3-13100 (3.40GHz) 相当以上であること。	○
6	5	5				メモリーの容量は4GB以上であること。	○
6	5	6				256GB以上の物理容量を持つソリッドステートドライブを内蔵していること。	○
6	5	7				DVD-ROMドライブを内蔵していること。	○
6	5	8				台数は、クライアントPC 3 台、の構成であること。	○
6	5	9				薬袋プリンターは以下の要件を満たすこと。	○
6	5	10				プリンターの印字方式は、半導体レーザー+乾式2成分電子写真方式であること。	○
6	5	11				プリンターの最速印字スピードは35枚/分以上であること。	○
6	5	12				プリンターは薬袋や用紙を最大6種類セットできること。	○
6	5	13				プリンターにセットできる紙は平紙薬袋や横マチ付ガゼット薬袋および普通用紙であること。	○
6	5	14				プリンターは薬袋が1カセットに200枚以上、手差しに30枚以上ストックできること。	○
6	5	15				プリンターのサイズは手差しトレイを広げた状態でW1085mm×D798mm×H1215mm以内であること。	○
6	5	16				台数は、薬袋プリンター 2 台、の構成であること。	○
6	5	17				おくすり手帳/内服ラベル用プリンタは以下の要件を満たすこと。	○
6	5	18				ラベルプリンタの印字は仮名、漢字、片仮名、英数文字、バーコード等での印字ができること。	○
6	5	19				ラベルプリンターの印字方式は、熱転写方式、感熱方式どちらとしても使えること。	○
6	5	20				ラベルプリンタはロール紙をプリンタにセットでき、連続式でラベル紙をプリントアウトできること。	○
6	5	21				プリントアウトするラベル紙を自動でカットできるカッター機構を装備していること。	○
6	5	22				ラベルプリンターの解像度は、203dpi以上であること。	○
6	5	23				ラベルプリンターの印字幅は、104mm以上であること。	○
6	5	24				ラベルプリンタの本体は、本施設で指定する場所に設置できるサイズであること。	○
6	5	25				ラベルプリンタのロール紙補充は、ふたを開けて補充のロール紙を置くだけの簡単な補充セット方法であること。	○
6	5	26				台数は、おくすり手帳/内服ラベル用プリンタ 2 台、の構成であること。	○
6	5	27				注射箋用プリンターは以下の要件を満たすこと。	○
6	5	28				印字速度は35ページ/分以上であること。	○
6	5	29				印刷解像度1200dpi以上であること。	○
6	5	30				用紙出力サイズは、A4判以上であること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
6	5	31				給紙量は、A4普通紙280枚以上であること。	○
6	5	32				台数は、注射箋用プリンター 2 台、の構成であること。	○
6	5	33				注射ラベルプリンターは以下の要件を満たすこと。	○
6	5	34				ラベルプリンターの印字方式は、熱転写方式、感熱方式どちらとしても使えること。	○
6	5	35				プリンターの解像度は、203dpi以上であること。	○
6	5	36				印字速度は最大150mm/秒であること。	○
6	5	37				有効印刷領域は、最大幅：104mm 最大長：2539.7mmであること。	○
6	5	38				ラベルプリンタはロール紙をプリンタにセットでき、連続式でラベル紙をプリントアウトできること。	○
6	5	39				プリントアウトするラベル紙を自動でカットできるカッター機構を装備していること。	○
6	5	40				台数は、注射ラベルプリンター 2 台、の構成であること。	○
6	6					錠剤分包機制御プログラム	
6	6	1				錠剤分包機制御プログラムは以下の要件を満たすこと。	○
6	6	2				下記を更新すること。 ●全自動錠剤分包機 制御PC 1 台	○
6	6	3				下記を引き続き継続使用できること。 ●全自動錠剤分包機 1 式	○
6	6	4				既存錠剤分包機制御プログラムの機能を踏襲すること。	○
6	6	5				錠剤分包機用制御端末 P C は、以下の要件を満たすこと。	○
6	6	6				CPUがインテル Corei3－13100（3.40GHz）相当以上であること。	○
6	6	7				メモリーの容量は4GB以上であること。	○
6	6	8				256GB以上の物理容量を持つソリッドステートドライブを内蔵していること。	○
6	6	9				DVD-ROMドライブを内蔵していること。	○
6	6	10				台数は、錠剤分包機用制御端末PC 1 台、の構成であること。	○
6	7					散薬鑑査プログラム	
6	7	1				散薬鑑査プログラムは、秤量散薬及び錠剤粉碎データを、秤量調剤待ち一覧画面に表示し、散薬秤量を鑑査支援するシステムであること。	○
6	7	2				秤量調剤待ち一覧画面から、以下の項目が目視確認できること。 ●開始日 ●患者ID番号 ●患者氏名(カナ・漢字) ●受信日時 ●処方区分(定期・臨時・至急) ●処方種別(新規・修正・削除) ●診療科 ●病棟 ●引換券番号 (外来)  更に対象の患者を選択することで、以下の項目も目視確認できること。 ●オーダ番号/日付 ●患者詳細情報 (生年月日、年齢、性別、身長、体重) ●引換券番号 ●医師名 ●薬品名称 ●薬品棚番号 ●用法/用量 ●投薬日数 ●投薬開始日 ●一日量 ●目標値 ●実測値	○
6	7	3				鑑査記録紙にはバーコードを印字し、そのバーコードを利用して散薬分包機で分包する際に処方データを自動で呼び出せること。	○
6	7	4				既存散薬鑑査プログラムの機能を踏襲すること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
6	7	5				台数は、タッチパネル一体型PC1台、電子天秤1台、バーコードスキャナー1台、サーマルプリンター1台、の構成とすること。	○
6	7	6				タッチパネル一体型PCは、以下の要件を満たすこと。	○
6	7	7				PCはCPUがAtom E3845 4-Core (1.91GHz)相当以上、主記憶装置の容量は4GB以上であること。	○
6	7	8				PCは32GB以上の物理容量を持つ磁気ディスク装置を内蔵していること。	○
6	7	9				10.1インチ以上、解像度1280×768以上のタッチパネル式液晶カラーディスプレイであること。	○
6	7	10				OSは、Windows11 Pro 日本語版 相当以上であること。	○
6	7	11				PCは1000Base-T以上のインターフェースを1個有し、通信プロトコルはTCP/IPであること。	○
6	8					散薬分包機制御プログラム	
6	8	1				散薬分包機制御プログラムは以下の要件を満たすこと。	○
6	8	2				下記を更新すること。 ●全自動散薬分包機 制御PC 1台	○
6	8	3				下記を引き続き継続使用できること。 ●全自動散薬分包機 1式	○
6	8	4				既存散薬分包機制御プログラムの機能を踏襲すること。	○
6	8	5				散薬分包機用制御専用端末は、以下の要件を満たすこと。	○
6	8	6				CPUが Corei5-10210U (1.60GHz) 相当以上であること。	○
6	8	7				メモリーの容量は4GB以上であること。	○
6	8	8				256GB以上の物理容量を持つソリッドステートドライブを内蔵していること。	○
6	8	9				13.3インチ以上、解像度1920×1080以上、日本語キー入力付きキーボードが付属していること。	○
6	8	11				台数は、散薬分包機用制御専用端末ノートPC 1台、の構成であること。	○